

# 海神会だより



## お知らせ事項：主要項目・頁を下記に記載

- 2頁 海事科学研究科長 内田 誠「深江キャンパス、第二世紀を歩む」  
海神会会長 挨拶 小見山純郎  
平成30年海神会・総会・理事会・懇親会のご案内
- 3頁 最近の海事博物館 岡本泰一
- 7頁 海神会会費納入及びご寄付のお願い  
「送付封筒の宛名ラベルに納付状況（0/6～6/6の数字）が記載されています。」
- 8頁 海事博物館・ボランティアとの出会い 山本 壮
- 17頁 若者コーナー 近況報告、クラブ・部活、海神会に一言等
- 20頁 神戸大学附属図書館 海事科学分館からのお知らせ



海神会



神戸高等商船学校・神戸商船大学・神戸大学海事科学部同窓会  
〒658-0022 神戸市東灘区深江南町5-1-1 神戸大学深江キャンパス内 海神会事務局

同窓会誌「海神会だより」は海神会ホームページ(<http://www.fukae.org/>)の"同窓会だより"からもご覧いただけます





## 深江キャンパス、第二世紀を歩む

海事科学部長・大学院海事科学研究科長

深江における海技教育訓練（MET）は1917年川崎商船学校設立に礎を置き、神戸高等商船学校（1920年）に引き継がれました。その後、大学としての教育研究は1952年の神戸商船大開学、2003年の大学統合・海事科学部創立、2004年の国立大学法人化、2007年の大学院重点化・海事科学研究科設置と変遷を経て参りました。これまで、母校ならびに諸先輩方が一貫して海事社会への貢献を中心に社会責務を果たしてきたことに畏敬の念を抱くと共に誇りに思います。その一方で、大学統合の目的とされた「個性豊かな、海に開かれた総合大学として更に発展」に着目しつつ統合後の14年余を振り返ると、卓越研究大学を目指す神戸大学の一部局として、海に関する個性を発揮しながら総合大学の利点を活かして発展できたか自問せざるを得ず、第二世紀に歩みを進める部局運営の責任の重さを改めて強く

内田 誠(機関学科26期・南寮304)

感じます。

「海」に関する特色・強みの一つであるMETによる人材輩出を充実・発展させると同時に、海に関わる研究集団として体制強化を図り、社会発展への貢献と海事社会・海事産業界からの期待と信頼をより一層高めることが部局運営における重要事項です。一昨年末から検討を始めた自然科学系新学部等の構想は、まだまだ具体像を報告できる段階ではありませんが、海事科学研究科の強みを活かし弱点を確実に改めるために、検討を重ねて参ります。

第二世紀を歩む母校の教育研究ならびに人材育成輩出に、引き続きご理解とご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上



## 海神会会長挨拶

昨年（平成29年）6月に前会長の久保雅義先生から海神会会長の重責を引き継ぎました。航海学科17期生北寮211号室の小見山純郎です。平成15年5月の神戸大学との統合を受けて海事科学部同窓会が発足し、平成19年5月に正式に「海神会」と命名されました。歴代の海神会会長は初代の井上篤次郎先生をはじめ歴代名誉教授が主として務めて来られました。今回は民間人に会長職を執らせてはどうかとの諸先輩方のご意見を受けて、大阪湾水先区水先人の小職が海神会会長に選任されました。

これまで、申し訳なきことながら海神会の活動にはほとんど関わって来なかった私に、水先業務と並行しての海神会会長職が務まるかどうか極めて不安ではありますが、少しでも皆様方のご期待に添えるよう努める所存ですので、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

海神会会長 N17期 小見山 純郎



我々が在学中の神戸商船大学は、日本海運・造船業を担う海技者の教育・養成を第一義として存在していましたが、その後の大学改革と神戸大学との統合により、現在の海事科学部の有り様が旧商船大学卒業生にも解り辛くなっているように思います。それらの紹介も我々海神会の役割の一つかと考えています。

また、前会長の久保先生が一番苦慮されておられたのが同窓会活動の基盤となる同窓会会費の確保であり、久保会長のもと入学時の終身会員勧誘により基盤は確立されましたが、神戸大学の意向により来年度以降の新入学生への勧誘方法の変更が決定され、その対応が最初の大仕事となりそうです。本件に関しても皆様のご協力ご支援をどうぞよろしくお願い致します。

### 平成30年度海神会理事会・総会・懇親会の日時、場所が決まりました。

日 時：平成30年6月9日(土)

理事会会場：総合学術交流棟梅木Nホール、14:00～15:00

総 会 会 場：総合学術交流棟梅木Yホール、15:00～16:30

議 題：平成29年度収支決算、平成30年度予算、  
役員交代、活動報告など

懇 親 会：総合学術交流棟梅木ホール、16:30～18:00

尚、当日は深江祭と同時開催です。

参  
加  
申  
込  
先

同窓会総会及び懇親会に出席される方は

FAX 又はメールにて

ご連絡いただきますようお願い致します。

TEL/FAX : 078(431)6439

E-MAIL:

almamata@maritime.kobe-u.ac.jp

平成30年度 第13回ホームカミングデイは10月27日(土)です。

海神会評議会も上記と同会場にて当日13:00～14:00を予定しています。詳細は追ってお知らせします。どうぞ、ご参加ください。お待ちしております。





海事博物館ボランティアスタッフとして博物館に詰めていると、時としていろいろな人との出会いがある。今日は、古い話で恐縮だが、小谷信市神戸商船大学元学長にまつわるエピソードをご披露しよう。10月の或る雨模様の日に、小谷先生の三女輝子さんがその娘さんと来館された。

小谷先生は昭和2年に神戸高等商船学校機関科を卒業と同時に母校の教官として残ることを強く要請され、以来、神戸高等商船学校、海技専門学院、神戸商船大学とおよそ40年間を深江の地での商船士官の育成に全力を注ぎこまれ、昭和35年から41年の7年間は神戸商船大学第二代学長の重責を果たされた。

輝子さんが神戸商船大学を訪れるのは今日が三度目。最初は昭和33年竣工の深江丸二世（150ト）が大学に回航されてきた時に祝賀会があり、平元学長の娘さんと二人で「深江丸と命名し、ご安航を祈ります」と紅白のテープカットをしたとき。

二度目は、小谷先生の偲ぶ会が行われたとき。三度目の今回は、神戸商船大学が神戸大学になってどのように変わったのか、気になって見に来させてもらったとのこと、仰ぎ見る六甲の山並みやポンドに浮かぶ練習船の風景など少しも変わっていない、とノスタルジーにひたっておられた。輝子さんは私とはほぼ同年代、戦前戦後の学校や先生のことを、目に浮かぶように話していただいた。

先生は神戸高等商船学校の生徒の時に、大阪商船会社（OSK、現商船三井）の奨学生として奨学金を受給されていた。その縁もあって座学終了後の汽船実習はOSK“さんとす丸”（大正14年12月竣工 7,266 総トン）にアップさんとして乗船された。

さんとす丸は、大型船としていち早くディーゼルエンジンを搭載した画期的な本船で、乗船実習中に先生はこの最新エンジンの運転、点検、整備などの資料を細部にわたって後輩の勉強の一助となるように送り続けられたという。教育者の配慮であろう。卒業と同時に神戸高等商船学校助教として勤務し始めたが、OSKに就職しなかったばかりに在学中に支給されたOSK奨学金を学校から頂く薄給の中から返済しなければならない破目となり、経済的には苦しい毎月だったとか…

輝子さんの幼少期、住まいは青木の官舎で、広い官舎の敷地の入り口から奥へ一本掃き清められた道があり、片側は二階建て、片側は平屋が並び、教職員は職階に応じて入居されていて、ヒラの先生方は平屋の古い官舎だったとのこと。突き当たりの奥まったところが校長先生の瀟洒な官舎だった。

戦争の気配も濃くなってきた昭和14年から敗戦間近の昭和20年までの第四代校長は篠崎認三先生、海軍予備中佐、従四位勲五等、今では想像することすら難しいが、子供が表で遊んでいては目障りになる、目に触れるのは恐れ多いことであると、校長先生の朝のお出まし、夕方のお帰りの時には、家から外へ出ることが許されなかったという。

昭和20年、川西航空機甲南製作所（現・新明和工業）が米軍B29の爆撃を受け隣接する神戸高等商船学校も甚大な被害となった。

同時に、現在の白鷗寮の敷地にあった第四短期神戸高等海員養成所も爆撃され壊滅したそうである。第四短期神戸高等海員養成所は、昭和17年開設、昭和19年神戸高等商船学校専科と改称、昭和20年4月には高等商船学校専科神

戸分校となり昭和21年廃校となったが、この爆撃壊滅については、神戸商船大学五十周年記念誌にも同・七十五周年記念誌にも記述はない。

校長先生の官舎なども空襲で焼けてしまった。

昭和20年4月東京、清水、神戸の各高等商船学校を戦時海事行政の一環として臨時的に清水に統合するにあたり、昭和19年に小谷先生にも清水への転勤が命ぜられたが、「他へ移らなければならないのなら辞める。私は深江の捨て石になる。」との意思で神戸高等商船学校の敷地に創設された海技専門学院に残られたが、上述のとおり米軍の爆撃により学院は壊滅状態となった。

戦後、海技専門学院の復旧、さらに神戸商船大学設立に向けて大羽真治初代学長とともに奔走され、二代目学長として引き継がれ、さらに礎を固めるのに努力された。神戸商船大学の設立の際は、政府要人との折衝、また議員への陳情等、身を削るような忙しさであったが、大学設立資金を集めるため船会社などへ日参する寄付金をお願い行脚に明け暮れ「この寄付金集めが一番辛かった」と語っておられたそうである。

また先生は図書館資料の充実、海事関係資料の充実にも力を注がれ、諸先輩方や旧海軍関係先などあらゆるところから資料を収集し、海事図書館、海事博物館の基礎を形作っていただいた。

輝子さんのお話である。

神戸高等商船学校のころ、休日ともなると玄関が靴で溢れるほど大勢の学生たちが官舎へ遊びに来る。朝から母や姉たちとおはぎを大きなお皿に二皿も三皿も作る。いつもおなかを空かしている若い学生たちは甘いものが大好きだ。夕方になれば、今度はすき焼きパーティーが始まり大量に買っておいした肉を食べながら生徒たちは笑い、先生も笑う。生徒たちが帰ったあとには肉のひとかけらも残ってなくて、わたしたちはながいこと肉など食べたことがなかった…と。

おとうさんは思いやりのある人だったけれど、家ではいつも机に向かって書き物ばかりしていた。私がなにかしでかした時には、「そこへお座り」「私が何を言いたいのかわかっていないネ」「はい」「では、わかっているなら今後二度とこのようなことをしてはいけないヨ」このように諭されたという。

先生は自宅の庭を耕して草花の世話をするのが唯一の趣味であった。今となっては知っている人はほとんどいないと思うが、自分の土地や官舎の焼け跡などでたくさんのウバメガシの苗木を育て、これを学校の生垣として植え続けられた。それが現在の43号線沿いの歩道とキャンパスの境にある生垣の木々である。

いまでも青々と繁る生垣の奥から先生が剛く柔しく学生たちを見つめてくれているに違いない。

なお、輝子さんは神戸北野の街角で「ラメール」という喫茶店を営んでおられる（9月26日付け神戸新聞）。了解を得て記事にさせていただいた。

海事博物館 特別専門員 4N期 岡本泰一

海事博物館事務室：0784313564

（月、水、金 午後のみ開館）



矢野館長と共に寮歌斉唱



故三浦さんの館内案内



海事博物館教育100年の歩み





# かもめ会清掃班活動報告

－神船大1E三浦敏夫氏を偲んで 大学ボランティア活動に思う－

10月28日海事科学部創基百周年記念式典の当日、神戸商船大学機関科1期生の三浦敏夫さんの訃報に接しました。大学のボランティア活動の変遷を語るとき三浦さんの功績を抜きにすることは出来ません。

三浦さんは石川島重工業（IHI）を退社後、MCC食品に勤務され、芦屋市在住というところもあり母校との深い関わりと支援を貫かれた先輩でした。



学内清掃風景

平成12年1月7日発生した阪神・淡路大震災により「海事資料館」の収藏品・展示ケースなどに甚大な被害が発生し、収藏品の修復とデータベース化に平成14年に卒業生有志として参加したことから始まります。

また、神戸商船大学卒業生が親睦団体として組織していた「白鷗会」にも積極的に参加し、会員相互の懇親を図るとともに神戸商船大学に同窓会設立を希求されていました。白鷗会での大学支援をということについては、オピニオンリーダー的な存在でありましたが、その思いは「海事資料館」への支援という形で実現することになったのでしょう。

平成16年10月、神戸大学との統合後に深江キャンパスは海事科学部となり、神戸大学にはそれぞれ学部ごとに、同窓会が設立されており「海神会」の設立となったのはご承知のとおりです。この海神会設立にあたっては、三浦氏の貢献は称賛すべきところでありましょう。

「海事資料館」も「海事博物館」として格上げされ、海事

かもめ会清掃班班長 N17期 滝本 純治

資料の寄贈が増加して卒業生ボランティアの役割もさらに拡大して行きました。そんな中、平成19年より有志により大学内外の道路の清掃、植栽の手入れのボランティアが始まり、平成21年4月には、「キャンパスを綺麗にする会」が設立され、深江キャンパスで学ぶ学生諸君に整備された校内環境を提供すべく、三浦さんをはじめ清掃ボランティアの活動が始まった次第です。



オリーブ記念樹復旧作業

その後清掃ボランティアも年々活動を深め、毎年秋には在学生有志との「合同清掃活動日」を設け参加学生数も年々増加しております。今秋は台風被害で校内各所の植栽に倒木が見られ、特に8期生の記念樹オリーブの被害は、力強い学生の協力で見事に復旧することができました。また、合同清掃後は教室を借りての懇親会を催し、現役学生との楽しい交流の場としても定着して参りました。

清掃活動の活動資金には海神会の支援を受けております。紙面を借りて御礼申し上げます。

なお、現在の清掃ボランティア会員数は8名です。年々高齢化により作業効率下がって来ており、近隣に在住のOBの参加を募っております。海神会本部又は下記連絡先までお問合せ下さい。

かもめ会清掃班班長 滝本純治

TEL 0799-70-1681

E-mail:jktakimoto@yahoo.co.jp



清掃活動後懇親会での後の記念写真

滝本純治氏



## クラス会



### 神戸商船大学卒業 50 周年 12 期生 N / E 合同記念クラス会

我々神船大 12 期生は今年卒業 50 周年という大きな節目を迎え、記念のクラス会を平成 29 年 10 月 14・15 日に舞子ビラにて開催しました。N / E 卒業生及び同伴者を併せて 52 名が参集しました。先ずは大学構内に参集、構内を散策、矢野キャプテンの案内で海事博物館、深江丸を見学、記念植樹のハナミズキ前で記念撮影を、その後メイン会場の舞子ビラへ移動しました。

当会場では、風光明媚な庭園の眺めを満喫及び記念撮影を行った後、宴会場へ移動、久しぶりの再会で和気藹々懐か

#### E12 期 赤井 勝義

しいひと時を楽しみました。これも青春のひとつ時に全寮制にて起居を共にし同じ釜の飯を食した経験がもたらした賜物でしょう。宴会後更に宿泊部屋に移って二次会を持ち、夜更けまで積もる話に花を咲かせました。翌日は朝食後流れ解散とし、ゴルフ、ホテル近在散策等それぞれに楽しみました。最後になりましたがご協力頂いた矢野キャプテン、ご支援頂いた海神会に感謝の意を表して報告を結ばせて頂きます。



### 第 35 回白鷗杯ゴルフ大会

2017 年 9 月 28 日 垂水ゴルフ倶楽部

第 35 回白鷗杯ゴルフ大会が、平成 29 年 9 月 28 日（木）、垂水ゴルフ倶楽部（神戸市垂水区、バー 70）で開催されました。

当日は、前日から雨が心配されていましたが、スタート後しばらくしてから軽く通り雨の程度で、まずまずのゴルフ日和でした。

アウト 5 組、イン 4 組の 32 名が、ダブルバーニア方式による 18 ホールストロークプレーで熱戦を繰り広げました。

前回の「木枯らしの中で」から今回は 9 月末開催に戻しました。参加者は減少傾向ですがなんとか 30 名を上回りました。

優勝は N23 の網中俊之さん（Net 70.8）、バスグロは N11 山野勝三さん（Gross78）でした。

今回の優勝は最も若い網中さんとなりましたが、第 36 回

#### 関西支部長 E16 期 稲岡 秀昭

大会からは 20 ～ 30 期の方にもっと加わって頂き、活躍していただきたいと思います。

優勝 N 23 網中俊之さん

プレー終了後、倶楽部ハウスにて表彰式と懇親会が執り行われました。

成績上位者は次のとおりです。

|     |     |       | OUT | IN | GROSS | HDGP | NET  |
|-----|-----|-------|-----|----|-------|------|------|
| 優 勝 | N23 | 網中 俊之 | 53  | 47 | 100   | 29.2 | 70.8 |
| 準優勝 | E5  | 郷 拓郎  | 46  | 51 | 97    | 25.7 | 71.3 |
| 3 位 | E12 | 荒木 弘  | 52  | 42 | 94    | 22.2 | 71.8 |
| 4 位 | E14 | 山口幸次郎 | 49  | 38 | 87    | 15.2 | 71.8 |
| 5 位 | N8  | 山田 嘉道 | 55  | 52 | 107   | 35.0 | 72.0 |
| 6 位 | N11 | 山野 勝三 | 39  | 39 | 78    | 5.8  | 72.2 |





# 会計報告



## 平成29年度 第14回総会式次第

開催日時：平成29年5月27日(土) 15:00～16:30

開催場所：学内総合学術棟 1F 梅木Yホール

- 1.開 会
- 2.会長挨拶
- 3.議長選任
- 4.議長署名人の選出
- 5.議 案

第1号議案：平成28年度事業報告、収支決算及び監査報告について

第2号議案：平成29年度事業計画及び収支予算案について

第3号議案：会長、役員交代について

6.内田海事科学部長より

創基100周年記念の募金活動の現況報告がなされた

7.小見山純郎新会長の挨拶

8.各支部の活動報告

9.閉会

### 平成28年度 海神会 収支決算書

(単位:円 平成28年4月1日から平成29年3月31日迄)

| 科 目             | 28年度予算額   | 28年度決算額   | 差 異       | 備 考                                        |
|-----------------|-----------|-----------|-----------|--------------------------------------------|
| I.収入の部          |           |           |           | △は実収入が予算額より多い事を示す                          |
| 1.会費収入          | 6,280,000 | 6,000,000 |           |                                            |
| 2.雑収入           | 500       | 333,019   |           |                                            |
| 当期収入合計(A)       | 6,280,500 | 6,333,019 | △ 52,519  |                                            |
| II.支出の部         |           |           |           | △は実収入が予算額より多い事を示す                          |
| 1.事業費           |           |           |           |                                            |
| 総会経費、会誌発行、送料等   | 1,170,000 | 1,156,041 | 13,959    |                                            |
| HP維持、クラス会、学部支援  | 1,530,000 | 1,107,209 | 422,791   | 11期、A01,21期、                               |
| 関係団体、支部、部活経費等   | 1,265,000 | 1,290,215 | △ 25,215  |                                            |
| 小計(a)           | 3,965,000 | 3,553,465 | 411,535   |                                            |
| 2.管理費           |           |           |           | △は実収入が予算額より多い事を示す                          |
| 人件費、会議、交通費等     | 1,828,500 | 1,899,214 | △ 70,714  |                                            |
| 印刷、通信、消耗品       | 5,660     | 14,635    | △ 8,975   |                                            |
| 事務費、光熱費、雑費等     | 173,000   | 193,602   | △ 20,602  |                                            |
| 小計(b)           | 2,007,160 | 2,107,451 | △ 100,291 |                                            |
| III.予備費(c)      | 0         | 0         | 0         | 必要な場合特別会計より                                |
| 当期支出合計(B=a+b+c) | 5,972,160 | 5,660,916 | 311,244   |                                            |
| 前期末払金(d)        | 308,340   | 308,340   | 0         |                                            |
| 当期収支差額(C=A-B-d) | 0         | 363,763   |           |                                            |
| 当期剰余金処分案        | 平成28年度    |           |           |                                            |
| 平成28年度前期繰越金     | 3,970,950 |           |           | ※収支決算書並びに予算書に於いて疑問点がありましたら事務局までお問い合わせください。 |
| 当期繰越金           | 363,763   |           |           |                                            |
| 次期繰越金           | 4,334,713 |           |           |                                            |

### 平成28年度 海神会 特別会計 収支決算書

(単位:円 平成28年4月1日から平成29年3月31日迄)

| 科 目             | 28年度予算額    | 28年度決算額 | 差 異     | 備 考               |
|-----------------|------------|---------|---------|-------------------|
| I.収入の部          |            |         |         | △は実収入が予算額より多い事を示す |
| 預金利息            | 9,500      | 9,864   | △ 364   | 定期、普通預金利子         |
| 収入合計(A)         | 9,500      | 9,864   | △ 364   |                   |
| II.支出の部         |            |         |         | △は予算額の(A-B)を示す    |
| 送金手数料           | 10,000     | 0       | 0       |                   |
| 予備費             | 500,000    | 0       | 500,000 |                   |
| 支出合計(B)         | 510,000    | 0       | 510,000 |                   |
| 次期繰越収支差額(C=A-B) | △ 500,500  |         |         |                   |
| 当期剰余金処分案        | 平成28年度     |         |         |                   |
| 平成27年度繰越金       | 28,827,448 |         |         |                   |
| 平成28年度繰越金       | 9,864      |         |         |                   |
| 次期繰越金合計         | 28,837,312 |         |         |                   |

### 平成29年度 海神会 収支予算書

(単位:円 平成29年4月1日から平成30年3月31日迄)

| 科 目              | 29年度予算額   | 28年度決算額   | 差 異     | 備 考                |
|------------------|-----------|-----------|---------|--------------------|
| I.収入の部           |           |           |         | △は前年収入が予算額より多い事を示す |
| 1.会費収入           | 6,330,000 | 6,000,000 |         |                    |
| 2.雑収入            | 100       | 333,019   |         |                    |
| 当期収入合計(A)        | 6,330,100 | 6,333,019 | △ 2,919 |                    |
| II.支出の部          |           |           |         |                    |
| 1.事業費            |           |           |         |                    |
| 総会経費、会誌発行、送料等    | 1,185,000 | 1,156,041 | 28,959  |                    |
| HP維持、クラス会、学部支援   | 1,516,000 | 1,107,209 | 408,791 |                    |
| 関係団体、支部、部活経費等    | 1,425,000 | 1,290,215 | 134,785 |                    |
| 小計(a)            | 4,126,000 | 3,553,465 | 572,535 |                    |
| 2.管理費            |           |           |         |                    |
| 人件費、会議、交通費等      | 1,920,000 | 1,899,214 | 20,786  | 総合運営委員会等           |
| 印刷、通信、消耗品        | 87,000    | 14,635    | 72,365  |                    |
| 事務費、光熱費、雑費等      | 197,100   | 193,602   | 3,498   |                    |
| 小計(b)            | 2,204,100 | 2,107,451 | 96,649  |                    |
| III.予備費(c)       | 0         | 0         | 0       |                    |
| 当期支出予算額(B=a+b+c) | 6,330,100 | 5,660,916 | 669,184 |                    |
| 前期末払金(d)         |           | 308,340   | 669,184 |                    |
| 次期繰越収支差額(C=A-B)  | 0         | 363,763   |         |                    |

### 平成29年度 海神会 特別会計 収支予算書

(単位:円 平成29年4月1日から平成30年3月31日迄)

| 科 目           | 29年度予算額    | 28年度決算額    | 差 異       | 備 考                  |
|---------------|------------|------------|-----------|----------------------|
| I.収入の部        |            |            |           | △は実収入決算額が予算額より多い事を示す |
| 預金利息          | 9,500      | 9,864      | △ 364     | 定期、普通預金利子            |
| 小 計           | 9,500      | 9,864      | △ 364     |                      |
| 前年度繰越収支差額     | 28,837,312 | 28,827,448 |           |                      |
| 合計(A)         | 28,846,812 | 28,837,312 | 9,500     |                      |
| II.支出の部       |            |            |           |                      |
| 送金手数料他        | 10,000     | 0          | 10,000    |                      |
| 予備費           | 500,000    | 0          | 500,000   |                      |
| 合計(B)         | 510,000    | 0          | 510,000   |                      |
| 次期繰越収支差額(A-B) | 28,336,812 | 28,837,312 | △ 500,500 |                      |

特別会計は、神戸大学海事科学部同窓会「海神会」の基金として置くものである。





# ホームカミングデイ・創基 100 周年記念式典

神戸大学海事科学部創基 100 周年記念式典・祝賀会が開催されました

広報・社会交流推進委員会 三村 治夫

平成 29 年 10 月 28 日（土）、神戸大学海事科学部創基 100 周年記念式典・祝賀会が開催されました。記念式典は武田学長の式辞、内田海事科学部長の挨拶と進行し、続いて公益財団法人笹川平和財団参与の寺島 紘士氏による「海洋ガバナンスにおける神戸大学の役割」と題した基調講演が行われました。寺島氏は「国連海洋会議」、「国連海洋法条約（1994 年発行）」、「海洋基本法」に係る海洋の開発・利用と海洋環境保全との調和、「気候変動枠組条約」等について言及され、海洋は人間の共同財産でその総合的管理と持続可能な開発に係る「海洋ガバナンス」が重要であること、そして創基 100 年の海事科学部を要する神戸大学は海洋に関する総合的・学際的な研究・政策提言・人材育成の分野で国際社会をリードする大学を目指してほしい旨、講演されました。

模様替えした舞台で、福岡教授による「写真で振り返る 100 年の歩み」及び元神戸商船大学長の原 潔氏による「神戸商船大学の 21 世紀戦略と神戸大学との統合」と題した講演が行われ、記念式典は閉会しました。会場を体育館に移し、祝賀会が開催されました。

学外から 200 名を超える参加をたまり、盛大な記念式

典・祝賀会となりました。

式典に係る記事は、神戸大学ホームページに記載してありますのでご覧ください。まず、神戸大学のホームページにアクセスしていただき、画面左下方の「お知らせ」欄の右上の「一覧」をクリック、開いた画面の右下「>>more」をクリックし、次の画面の「2017.11.13」の行をクリックすると掲載画面です。以下に URL も示します。

[http://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2017\\_11\\_13\\_01.html](http://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2017_11_13_01.html)



## 海神会同窓会事務局の案内

2018 年 2 月吉日

神戸大学海事科学部同窓会 海神会会員の皆様へ  
海神会会費納入のお願い

卒業生の皆様、益々のご健勝、ご活躍を心よりお慶び申し上げます。また、在学生の学生会員の方々も平素より海神会の活動に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

海神会は、現在 1 万人近くの会員で構成され、会員相互の親睦を図るとともに、海事科学部・海事科学研究科の発展に寄与することを目的に各種事業を行なっています。事業内容は、同窓会名簿の管理、年 1 回の会報の発行、卒業記念クラス会への開催支援、海事科学部の年間行事、環境整備などへの支援、クラブ活動への支援、表彰制度のもとに海神会賞の贈呈、また全国の主要な都市に支部を設置し地域での活動の支援も行なっています。

海神会の更なる積極的な事業活動の実施のため財政基盤の強化が不可欠となっております。

下記の同窓会費及びご寄付の納入をお願い致します。

海神会組織基盤の強化を図り、海事科学部および海事科学研究科の益々の発展の一助となりますように、何卒、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

### 記

#### 付記事項

- ①海神会だより送付封筒の宛名シールには学籍番号や会費納入状況等が印字されています。
- ②同窓会費は、終身会費として 3 万円の納付をお願いしております。
- ③同窓会費は 5 千円単位での分納も受け付けています。
- ④同封の払込取扱票に必要事項をご記入の上、郵便局にてお振込み下さい。
- ⑤終身会費完納の方には寄付金としてのお振込みも受け付けています。  
払込用紙の会費・寄付欄に○印をご記入ください。寄付金は 1 千円単位で受け付けています。
- ⑥振込みされた会費ご寄付は原則返金致しませんのでご注意下さい。  
会費の重複振込を防ぐため、ご不明の際は事務局までご確認ください。
- ⑦振替払込請求書兼受領証は大切に保管してください。
- ⑧会費を完納された方には会員証を送付します。大切に保管してください。
- ⑨同窓会口座への振込みは ATM からでもできます。  
振込先：ゆうちょ銀行 振替口座 00900 - 5 - 269639  
名義：神戸大学海事科学部同窓会  
(会員の名前、住所、卒業年、学科を分かる範囲でご記入ください。)
- ⑩その他、ご意見がございましたら、下記へお気軽にご連絡下さい。

### 海神会事務局

〒658-0022 神戸市東灘区深江南 5 丁目 1-1 神戸大学海事科学部内

Tel&Fax : 078-431-6439

e-mail : [almamata@maritime.kobe-u.ac.jp](mailto:almamata@maritime.kobe-u.ac.jp) ホームページ : <http://www.fukae.org/>







## 海事博物館・ボランティアとの出会い

### 1. はじめに

神戸商船大学原子動力学科2期生の山本壮です。H29年10月より、海事博物館・ボランティアに参加させて頂く事と成り週1回深江キャンパスに来るようになりました。落ち着く間も無く、海神会の事務局長より「海神会だより」への寄稿依頼があり、寄稿させて頂く事と成りました。

### 2. 原子動力学科

先輩諸氏及び若い卒業生の方には、神戸商船大学の原子動力学科は余り馴染みの無い方も多いかと思いますので、初めに原子動力学科を紹介させて頂きます。

- (1) 昭和35年「原子力船特論」「原子力工学概論」が商船学部開設され原子動力学科設置の検討が開始。
- (2) 昭和39年度「原子力工学」が開講。
- (3) 昭和40年度「原子力機関工学」に増設が認められる。
- (4) 昭和41年度「放射能実験室」「RI実験室」等の原子動力学科関連棟が完成。
- (5) 昭和47年4月：原子動力学科が開設され第1期生40名が入学。
- (6) 平成5年3月：第18期生の卒業を以て廃科。その間720名が卒業。

現在もキャンパスの東部に関連棟、実験室等の一部は残り、別の学科の実験室等に使われている。

当時の原子力船に対する将来見通しは、昭和46年に日本原子力産業会議の原子力船懇談会が発表した「原子力船に関する長期展望」によると、「日本の原子力船はコンテナ船、タンカーを含めて1985年には20隻、1995年には155隻、2000年には280隻と成り、今後30年間に交代要員を含めて4500人以上の乗組士官が必要になる。」との壮大な展望がなされた。

当時本学では、原子力商船の実用化は昭和55年頃と見込み、その間原子動力学科卒業生を従来船と原子力船「むつ」の運行で習熟させ、原子力商船就航に際して順次配乗させる計画で有った。その為、カリキュラムには、3ヶ月の「むつ」乗船実習が含まれていた。

その後、昭和49年9月「むつ」試験航海中に放射線漏洩事故が発生し、原子力船の安全性に対する懐疑及び原子力商船向け経済性の高い原子炉開発の頓挫により、原子動力学科の当初の目標も希薄と成り廃科に至ったのでした。

### 3. 原子力船「むつ」

次に原子動力学科設立の起点と成った原子力船「むつ」を紹介させて頂きます。  
第2次世界大戦後、原子力の平和利用として原子力発電所の建設及び原子力商船の建造が進められた。当時諸外国の原子力商船の実績としては

- (1) 1959年（昭和34年）9月、ソ連の原子力砕氷船「レーニン号」就航。
- (2) 1962年（昭和37年）5月、米国の貨客船「サバンナ号」完成。
- (3) 1968年（昭和43年）12月、西ドイツの貨物船「オット・ハーン号」完成。

我が国は昭和22年1月に連合国極東委員会により「日本の原子力研究の禁止」が決議されていたが、昭和27年4月の「サンフランシスコ講和条約」の発効以降に原子力の研究開発も認められ、再開された。我が国の原子力船の開発は、昭和30年8月ジュネーブで開かれた「第1回原子力平和利用国際会議」で米国、ソ連、英国等、先進各国が競って公開した原子力技術情報に刺激され、原子力開発計画が急速に前進する事から始まった。

- ①昭和31年1月「原子力3法（原子力基本法、原子力委員会設置法、総理府設置法の一部改正法）」が制定・施行。
- ②同年8月運輸省は「原子力船建造10ヶ年計画」を作成。
- ③昭和33年4月日本原子力産業会議で、日本原子力船懇談会開催及び原子力実験船の建造を検討する事が採択された。
- ④同年8月日本原子力船研究協会が発足。
- ⑤昭和35年9月科学技術庁と運輸省とで原子力船開発合同会議が設置。
- ⑥昭和36年2月原子力船開発合同会議は、原子力委員会が発表した「原子力開発利用長期計画」に基づき原子力船

### 原子動力学科 A2期

### 山本 壮



建造技術の確立及び運行技術の習得の為、原子力第1船を建造、運行する事を決議。

- ⑦昭和37年6月原子力委員会・原子力船専門部会が原子力船建造計画を立案。
- ⑧昭和38年8月官民共同出資の「日本原子力船開発事業団」が設立。
- ⑨同年10月「原子力第1船開発基本計画」が決定され、原子力第1船「むつ」の建造計画がスタートした。
- ⑩昭和42年11月政府は原子力委員会の答申に基づき、原子力第1船「むつ」の建造を許可。
- ⑪昭和43年11月27日石川島播磨重工業(株)東京第2工場の第2107番船として、船台にキールを置いた。
- ⑫昭和44年6月12日「進水式」を行い、母港むつ市にちなんで「むつ」と命名。
- ⑬昭和45年6月27日から30日まで、東京湾館山沖で補助ボイラーによる海上公試運転を実施。
- ⑭同年7月13日原子力船開発事業団に引渡され、大湊港に回航の上、原子炉の搭載、核燃料の装荷を実施。
- ⑮昭和49年8月26日出力上昇試験の為、大湊港を出港。
- ⑯同年8月28日午前11時34分、北緯41度20分、東経151度8分、青森県下北半島尻屋崎東方800キロの太平洋上で、原子炉が初めて臨海に達した。
- ⑰同年9月1日0%出力試験から低出力核計装較正試験（出力を徐々に上昇させて行く試験。）に移り、原子炉の運転を継続していた所、午後5時17分放射線監視装置のアラームが鳴り、原子炉出力1.4%での放射線漏洩の発生を知らせていた。調査の結果、0.2ミリレントゲンの放射線が漏洩している事が確認された。原子炉格納容器の周囲の遮蔽は、鉛遮蔽材とポリエチレン遮蔽材の上に重コンクリートで遮蔽されるので有るが、格納容器頭頂部は鉛遮蔽材と重コンクリートの間にポリエチレン遮蔽材が使用されていなかった事が、放射線漏洩の原因で有った。その後、諸般の事情により長い彷徨を続けた。
- ⑱昭和63年1月佐世保重工業(株)での遮蔽改修工事を経て、関根浜港へ回航された。
- ⑲平成2年3月29日より関根浜港岸壁での出力上昇試験を皮切りに、12月7日～14日第4回洋上試験を実施。
- ⑳平成3年2月14日進水以来22年にしてようやく、原子炉施設の使用前検査合格証、船舶検査証書、船級証書が交付され、日本船籍の原子力船「むつ」が誕生した。
- ㉑平成3年2月25日より、原子動力による運行実績の蓄積と、船舶が遭遇する気象・海象での操船性能等を考慮し、原子炉パラメーター（原子炉出力、加圧器水位、蒸気流量等）との相互関係を究明する為、実験航海に出る事と成った。これらの実験航海は昭和60年3月政府が決めた「日本原子力研究所の原子力船の開発のための研究に関する基本計画」に基づいて行われ、合わせて実験航海終了後、直ちに解役される事が決定していた。
- ㉒平成4年8月3日「むつ」の原子炉施設解体届提出。
- ㉓平成5年5月燃料体取り出し。
- ㉔平成6年12月原子炉補機室の除染検査及び管理区域を解除。
- ㉕平成7年6月22日原子炉室を4000Ton起重機船で釣り上げ原子炉保管棟へ移送。これを以て名実共に「むつ」は解役された。

### 4. 卒業から就職

小生は、昭和52年9月本学を卒業したが、当時は海運不況及び造船不況が進み、海運会社、造船会社及び海事関係企業よりの求人が原子動力学科には、特に少なかったと思われる。又、陸上企業の募集は、本学が9月卒業の為、かなり限定された企業のみで有った。一方、原子力産業界は、原子力発電所の建設ラッシュで、既設原子力発電所の増設及び新設原子力発電所の建設が進んでいた。加圧水型原子力発電プラントと沸騰水型原子力発電プラントの2方式の発電プラントの建設が進んでいたが、加圧水型原子力発電プラントは、三菱重工業(株)がプラント会社として、関西電



力(美浜3号機、大飯3.4号機、高浜3.4号機)の増設、四国電力(伊方3号機)の増設、九州電力(玄海3.4号機)増設及び川内1.2号機の新設、北海道電力(泊1.2号機)新設工事等を進めていた。沸騰水型原子力発電プラントは、(株)日立製作所及び東芝(株)が東京電力(福島原子力発電所)及び柏崎・刈羽原子力発電所等の建設を進めていた。

小生は、各種プラント向け制御弁メーカー、ニイガタ・メソソネーラン社の技術員として上記原子力発電所向け制御弁の納入に関与した。同時に、石油精製、石油科学プラントへの納入も並行して行なっていたので、海運業界及び造船業界の状況と比較し、原子力産業及び石油・石油科学業界の活況が嘘の様に思える事が有った。特に、三菱重工業(高砂製作所)の原子力プラントを担当した当時は、複数の原子力プラントが並行して建設が進められた為、殆ど連日深夜まで仕事をしていた。

当時は日々の忙しさに感じ原子力の勉強をする機会が無かったが、平成8年に日本原子力発電(敦賀原子力発電所)に北条正先輩(A1期)を、又、核燃料サイクル開発機構「もんじゅ」に横田淑生先輩(A1期)を訪問する機会に恵まれ、久しぶりに原子力の現状及び将来に関し勉強する事が出来た。原子力発電所の内部は滅多に見学出来ないが、両先輩のお陰で可能な範囲を見学させて頂いた事は非常に有意義であった。



## 5. 柴田先輩(N7期)との出会い

平成16年4月、独立行政法人海技大学校機関科長 引間俊雄教授(当時)(E21期)の御推薦により海技大学校非常勤講師に就任し、機関科補機及び海事法規を講義する事と成った。

引間先輩とは、毎年5月神戸港カッターレースで御一緒させて頂いている。平成29年で第39回と成る神戸港カッターレースには当初よりE21期鈴木孝希先輩、角谷勝己先輩、亀井洋先輩、引間先輩等が主宰するカッターチームに参加させて頂いた。現在は、「アトム2期」チームを率い、先輩チームと毎年の同窓会を神戸港メリケンパークで楽しんでいる。

数年前より、「N22期」チームも参加しており、老いて益々仲間が増えておりますので、諸氏もチャレンジされては如何でしょうか。毎年3月の「神戸市広報」にてカッターレース参加要領が掲載されるので、御参照下さい。閑話休題。

当時、非常勤講師室は2室有り、第1非常勤講師室は一般教養講師用、第2非常勤講師室は航海科及び機関科各3名、計6名の講師が机を向かい合わせに座っていた。6名の内、3名が神戸商船大学卒業生で、柴田康彦先輩(N7期)、吉岡秀雄先輩(E12期)及び小生で有った。両先輩には大変お世話に成ったが、柴田先輩とは、机が向かい合わせで色々お話し頂き、特に非常勤講師の他に神戸商船大学海事資料館(現、博物館)のボランティア活動をされており、その話が非常に印象に残った。又、神戸商船大学卒業以来25年振りに新たな気持ちで両先輩の船長、機関長時代の御経験談も多々拝聴させて頂き、「塩っけ」が少し戻った気がした。

## 6. 船舶管理と船用資材・機器の調達

その後、神戸の八馬汽船(株)にて船舶管理及び船用資材・機器調達を担当した。船舶管理では、最近特に厳しく要求される環境問題に対する船舶諸設備の整備及び運用に関する対応を改めて勉強した。本船乗組員に周知徹底する為には要求する側が十分理解の上、乗組員を指導する必要がある。排気ガス、廃油処理、バラスト水処理等年々世界の海洋、港での規制が厳しく成っている。又、年々船舶の経済性が要求され、予算の厳しい管理が要求されている。特に燃料、潤滑油、予備品、船用品等の適正な購入及び使用が求められている。

入渠工事に関しては、圧倒的に安価な中国造船所での工事内容の品質管理に非常に神経を使った。日本の造船所の

場合、ある程度造船所の技術者に任せて工事を進める事が出来るが、中国造船所では、全てに目を光らせていなければならなかった。

小生は、自動車運搬船2隻と多目的船(ばら積み貨物、自動車、重量物等が積載出来る船舶)3隻の船舶管理を担当し色々なトラブル(座礁、衝突、エンジントラブル等)を経験したが、中でも印象に残っているのが、

(1) 平成22年5月担当船の1隻がクウェートからスエズ經由欧州に向かう航海中、ソマリア沖を各国警備船に守られた船団で通過して、船団解散5時間後、海賊の襲撃「Pirate attack」を受けたとの連絡が有った。社内騒然と成る中、「Run away, Snake dance」の支持以外為す術も無く、経過を見守っていた。その後、無事海賊より脱出して事なきを得た時は言葉に言い表せられない安堵感を覚えた。

(2) 平成23年7月には、担当船がベトナム・バンタウからホーチミンへ河口を上り始めた時、「Vessel suddenly stop」との一報が入った、エンジンの状況を確認したが問題無く、後進運転でも停止したままで有った。海図では水深は問題無かったが、水深を実測したところ座礁した事が判明した。当時、パイロットは乗船していたが、調査の結果、1ヶ月前にも同所で座礁事故が有ったがパイロットは事故を把握していなかった。又、海図も相当問題が有る事が解った。満潮を待ち、ダグボートにて牽引して浅瀬より脱出したが、1晩本船の監視をし、翌朝ようやく離礁、航行を再会した時には疲れがドット出た経験が有る。

その他、エンジントラブル、諸事故及び航行に影響を及ぼす事項は不思議と夜中(日本時間)に発生する事が多く、就寝中に携帯へ連絡を受け夜中に事務所へ出勤し対応したり、徹夜での対応が何回か有った。

八馬汽船(株)の管理船約60隻の船用資材及び機器調達、又、国内での本船への積み込み時の通関業務及び海外港での積み込み手配等に関しては、当時八馬汽船グループに在職されていた竹入弘先輩(E14期)に多々御指導頂き職掌を全うする事が出来た。出来るだけ経済性を重視した調達や手配は、かなりの経験が必要で有る事が痛感された。

## 7. 柴田先輩との再会とボランティアへの参加

平成29年5月海神会総会にて10数年振りに柴田先輩と再会し、海技大学校時代のお話をさせて頂き、柴田先輩が未だボランティアを続けて居られるお話をお伺いし、小生にも「ボランティアに参加しては」とのお誘いを頂いた。同年9月定年退職を機に、10月よりボランティアに参加させて頂いている。海事博物館は月曜日、水曜日及び金曜日の午後開館しており、各曜日2名ずつのボランティアが出勤して「海事博物館展示品、収蔵品の整理及び博物館来訪者への説明対応」を行っている。

メンバーは、月曜日が柴田康彦先輩(N7期)、吉川道雄先輩(E16期)、水曜日が岡田道典先輩(N4期)、溝下和裕先輩(N18期)、金曜日は岡本泰一先輩(N4期)と小生である。岡本先輩とは初対面であったが、卒業高校(兵庫県立芦屋高等学校、岡本先輩が8期生、小生が24期生)の先輩でもある事が解り、不思議な縁を感じた。海事資料倉庫にはまだまだ未整理の資料も多く整理に人手が必要で、平日でも結構来館者も多く対応に追われる日も有る。諸氏の中で自分もやって見ようと思われる方は是非ボランティアに御参加頂きたい。

## 8. おわりに

入学以来、諸先生方及び本学職員の皆様のお世話に成り、卒業後も、諸先輩のお世話に成り現在に至っております。特に、卒業後の節目毎に先輩諸氏のお力により、先に進めました事、今後の方向性に御助言頂きました事は、本学学生時代からの強い結び付きの賜物と感謝しております。これからは少しでも本学及び海事のお役に立てればと決意を新たに致しております。諸氏も、機会が有りましたら一度博物館を覗いて頂ければ、諸氏の学生時代や社会人として活躍された時代を振り返る良い機会に成るのではと、愚考致します。

最後に海神会の益々の御発展と皆様の御健勝を祈念して、終わりとさせて頂きます。

(参考文献)

1. 原子動力学科 15周年記念誌
2. ATOMICA, 原子力年表、原子力船





## 新入生の皆さんへ

－海神会を気軽に活用してください！－

海洋安全システム科学

E29期 教授 三村 治夫 博士（医学）

新1年生の皆さん、海事科学部入学おめでとう。海洋安全システム科学講座の三村治夫です。海事科学部では、海事環境工学、海洋分子生物学、エコエネルギー変換工学の授業を担当しています。海事科学研究科では、フジツボ付着期幼生の青色光視認力を利用した船底防汚手法や海洋細菌の好塩性・塩耐性に係る微生物生理学などの研究を行っています。海洋の微小生物に興味のある学生諸君、研究室を気軽に訪問ください。

「常に気力と体力を」、この言葉は深江で学ぶ学生諸君に海事科学部が求め、社会で活躍する卒業生の皆様に海事科学部が期待し、そして神戸商船大学時代から継承される規範となる言葉です。興味ある学問を究めるためには、気力と体力の充実が不可欠です。気力は受験勉強で鍛えているとして、体力の向上は日頃から健康に留意し、クラブや同好会、サークル活動等に積極的に参加し活動することで効果的に達成できると思います。在学時に涵養した行動力・実行力は、在学時のみならず、社会人となって研究やビジネスを行う上で重要な要件になると思います。このような社会人力は、同窓との連携によってより強固になると考えています。その重責の一部を同窓会である「海神会」が担っていることを記憶にとどめておいてください。本会の名称は、海事科学部の「海」と神戸大学・神戸商船大学の「神」の二文字から構成されているということだそうです。

学生諸君には、既に入學当初から本会の終身会員となって欲し旨お伝えしています。入学年次を卓越した、先輩後輩の上下関係のない、卒業生間のネットワークを保有す本会は、学生諸君が進路選択に迷った時の灯台のような役割を果たしてくれることでしょう。事務所は1号館2階にあります。週2日（月曜日と金曜日）しか開いていませんが、思い切ってドアをノックしてみましょう。いろんな経験を持った本学の大先輩の方が温かく迎えてくださいます。本会を、在学時代から有効活用していただくことを願っています。

以上



－共に同志として歩みましょう－

グローバル輸送科学科航海マネジメントコース

N 37期 村井 康二 博士（工学）

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

皆さんは神戸大学海事科学部の15期生となります。海事科学部の前進である神戸商船大学から見れば、当海神会の会長が17期生、事務局長が13期生です。これからの皆さんの将来を見据えれば、海事科学部の先輩である1期生がやっと社会で活躍をしはじめ、皆さんはその一桁代を継いでいく非常に大切な役割を担っています。

2016年度となりますが、文部科学省の統計データによれば、国立大学数は全国で11.1%、学生数では21.2%と希少です。さらに、皆さんがこれから学ばれる商船系学科における大学生はたったの0.1%です。ちなみに医・歯学2.8%、芸術2.7%です。皆さんは海・船の専門分野を継承、発展させていく我が国の大切な人材であり、期待されています。大学生活を桜花するとともに、皆さんが、海事の専門家となり、海事科学部・神戸商船大学の卒業生と共に社会で活



躍できる日が来ることを今から待ち望んでいます。

我々と同じ海・船（海事科学部）の世界を人生の選択枝として選ばれたことを嬉しく思い、また、これからは同志として、共に歩みましょう。



## －充実した学生生活を送りましょう－

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

私は海事科学部の前身である神戸商船大学出身で、かれこれ20年弱教員をしています。海神会は神戸商船大学と海事科学部の卒業生から成る同窓会組織で、私もその一員ですので、今回このような機会を作って頂きました。現在、グローバル輸送科学科ロジスティクスコースの1年生の学級指導教員を担当していますので、当該コースについて紹介します。

ロジスティクスとは、原材料調達から生産・流通過程を経て、消費・廃棄・リサイクルを含む物資流動を総合的に管理するシステムのことを指す言葉として用いられています。ロジスティクスを学べる学科コースは、日本国内では文系学部に属することが多いのですが、本コースでは理系学部の一学科コースとして交通輸送分野をベースに数理・情報・経済・経営というアプローチで様々な角度から諸問題を解決する方法を習得できるところが他大学との大きな違いです。また本コースが属するグローバル輸送科学科には、航海マネジメントコース（船舶職員養成コース）もありますが、船に乗らないコースというイメージで受け取られがちですが、理系に属する本学部内ではどちらかというと、エンジニアではなく、管理者を養成するコースとして位置づけられています。

大学の教員は各自研究テーマを持ち、学生らとともに研究活動を行うことが求められるので、私自身の研究テーマを紹介します。コンテナ港湾に関わる各種スケジュール立案に関する研究を行っており、具体的な研究テーマは、

- (1) 超大型船が寄港する港湾でのバース空間利用の最適化
- (2) トランシップコンテナを対象としたヤードブロック最適割当
- (3) ヤードトレーラーの動的運用
- (4) 環境負荷を考慮した海上コンテナのドレージ最適化
- (5) コンテナヤードのレイアウト設計、などがあります。

また最近では社会のニーズ、私自身や学生らの興味の変化などに合わせて、コンテナ以外の港湾、大規模災害時の物資輸送に関する研究も始めつつあります。

上記の研究は、柔軟な発想を持った学生諸君と共に切磋琢磨して、研究成果を出してきました。すぐに結果が出る研究

### グローバル輸送科学科ロジスティクスコース

#### BT 3期 西村 悦子 博士（工学）

テーマではないので、地道にコツコツと物事に取り組むことのできる人に向いています。次に卒業生がどのような分野で活躍しているのかを紹介します。ロジスティクスコース Web サイト

(<http://www.edu.kobe-u.ac.jp/fmsc-logistics/career.html>)

の「卒業生のメッセージ」欄に、研究室の卒業生たちからのコメントが掲載されていますので、ぜひ見て頂きたいのですが、商社、船会社、メーカー、物流、銀行、保険など様々な業界に就職しています。ただし、彼らの仕事内容はやはりロジスティクスに関わる分野での業務を要求され、例えば銀行や保険でも物流事業者が顧客であるなど、その業界の予備知識があることを前提に担当を任されるようです。学生時代に、ちゃんと勉強しておけばよかったという声をちらほら聞きます。学生時代には勉強以外に優先度が高い何か（例えば、部活動など）があるようです。部活動の部長を務める学生が研究室に所属する場合もあるので、部活に時間を取られつつ、卒業研究の時間を確保してやりくりしている様子を見てきました。学生時代にしかできないことも多いので、打ち込むことがあるなら、その優先度が勉強でなくても良いのかもしれません。しかし、大学4年間に何を会得したのかを胸を張って言えるようになってほしいと思います。最後に、高校までとは異なり自由にできる時間が多くあることから、自己管理がうまくできず生活のリズムが狂ってしまい、体調を崩すケースも少なくないです。体調管理には留意され充実した学生生活を送ってください。







#### 1. はじめに

海事科学研究科の博士後期課程を2012年に修了しました三輪 誠(みわ たかし)と申します。

富山県魚津に実家があり、父親が上下水道の敷設と冷暖房装置の設置/修理を取り扱う配管業を営んでいます。

幼少の頃、よく父親のアユ釣りに連れて行かれ、専ら釣れた魚を針から外す、つまらない小僧をしていました。中学生になり、ようやく自分の竿を手にして海や川へと釣り三昧な日々過ごしました。特に川釣りに思い入れがあり、水面を凝視して、揺れ動く魚影を探すのは楽しく、また、息を殺して仕掛けの流れに入れる一投目の緊張感がこの上なく好きでした。そんな風でしたので、将来は「釣り」で生計を立てたいと思うほどでした。

振り返れば、その頃に海・船への憧れが芽生えていたのだと納得できます。



若かりし頃の筆者と愛犬たろう

船乗りになる切っ掛けは中学3年時、担任のひと言でした。「商船高専なんか、どうだ？ 船に乗れるぞ。」それから5年半、1992年10月に富山商船高等専門学校(現：富山高等専門学校)機関科を卒業、1993年4月に東京商船大学(東京海洋大学)商船学部機関システム工学課程へ編入学、1995年4月に運輸省航海訓練所(現：独立行政法人 海技教育機構航海訓練部)へ入所、念願の船舶職員の入口に立ちました。

当時、4月採用者は私だけでしたので、所長より直々に辞令を受け取り、その後の研修も担当者とのマンツーマン、すべてが特別待遇の緊張した1週間であったことを記憶しています。その翌週の月曜日、長崎の小ヶ倉埠頭より練習船青雲丸へ次席三等機関士として乗船し私の機関士人生が始まりました。

航海訓練所在籍中の2003年1月～3月、川崎汽船の最上川丸にてペルシャ湾まで行く航海に研修乗船し初めて社船で働く雰囲気も知りました。そして2004年4月～2006年3月に海事科学部附属練習船「深江丸」へ機関長としての乗船勤務、大学教育の授業や実習を経験しました。それらは「ひと所に居ては知れないことが多い」ことを知れた貴重な時間でした。いずれの勤務発令も横浜寄港の際に、上司の科長から直接呼び出しを受け、その場で即決したものでした。取分け深江丸への乗船勤務発令は引越先が神戸の官舎になるため、愛犬たろう(8歳、Labrador)との辛く悲しい決別を強いられました。今でも辛い別れを思い出す時があります。その後航海訓練所を退職して富山高等専門学校の教員を経て、2013年4月より神戸大学大学院海事科学研究科に教員として勤めています。

現在の研究テーマとして「Design for safety」を掲げ、船舶機関士の作業がより一層「効率よく安全に遂行できる」ように、また機関室の資源管理を行うためのデザイン(環境や方法、思想など)の向上を考えています。

#### 2. リーダーシップ

海事科学部では、マリンエンジニアリング学科機関マネジメントコースの学生を対象とした授業のいくつかを担当

しています。授業では船舶機関士としての経験を用い、演示を交えて教授することで、学生の理解を助けているだろうと期待できる瞬間が多々あります。航海訓練所に勤めている時から、人と話し合っ何かを教えることを心地良く思っていました。自身の経験が活かされる喜びや苦境の克服経験を経て今の自分があることが支えとなり自身を平安な気持ちに或いはモチベーションアップへと繋げています。一方で、私自身がもう一度、学び直さなければならない授業も担当しています。3年生前期に開講している「リーダーシップ」はその1つです。小学校の理科の授業以降、私たちは、演習や実験の場面において、少人数で構成されるチームに分けられていました。演習や実験ではチーム毎に与えられた課題に取り組み、個々に成果を求めて奔走していたように思います。チームが編成されて間もなく、チーム内には自然と代表者が現れ、その彼や彼女に従ってメンバーは作業を分担し、成果をまとめて先生に提出する、といった具合に進みます。大学においても、教室授業のほかにも実験室にて演習があり、前述と同様にして、複数の班が編成され、課題に取り組みます。私の学生時代のいずれの商船系の学校においても、「リーダーシップ」と定めて学ぶ時間は配置されてはいませんでした。そして、その必要性を意識した事はありません。しかしながら、定期的にリーダーシップという言葉は耳にしていました。練習船乗船式にお世話になった船長のお言葉にもありました。

「…、乗船中は特に、3つのシップを意識してもらいたい。リーダーシップ、フレンドシップ、シーマンシップ、…」。

私たちは、小学校の理科の教室に見られたように、それぞれ乗船実習に至るまで、様々なタイミングにて「リーダーシップ」を意識付けるように期待されていたのかも知れません。リーダーシップはリーダーとフォロワーとの間で構成されています。両者の間の良好なコミュニケーションにより、リーダー、フォロワーが効果的に機能できます。そう考えて、全15回から成る授業は先ず、コミュニケーションの基礎・基本から始めています。



帆船「みらいへ」にて、溝口機関長とともに



ある年度の第1回の授業では、教卓の前に座っていたヨット部の学生を指名して、クラブ勧誘シーズンの頃、初対面の1年生とどのようにコミュニケーションを取り、入部を勧めるか、「君なら、どうするの?」具体的に手順を聞きます。すると、「こんにちは、部活やサークルは決めましたか?」、「いま、体験入部をやっているのだけど、ヨットに興味はある?」、といったぐらいのやりとりで、当然、期待した成果は得られない様子でした。

そこで、例えば、次のような具合です。

“こんにちは、ヨット部2年の三輪といいます。出身が富山でヨットは大学から始めたけれど…”。目の前の相手にとって自分が何者であるか、示せば示すほどに、相手の不安は軽減されます。そして、出身地やアルバイトなどプライベートな情報が加わり、それらに自分との共通点が見つかればさらに安心感を生みます。自分の目の前で一生懸命に自分に話しかける相手を少し信じてみようと思いはじめめるのです。

このようにお互いが信頼を得る努力をするうち両者の間には良好なコミュニケーションが築かれるようになります。まず、自分を示しそれから相手を知ろうとする事が誠意のある正しい方法なのです。

### 3. 東京か神戸か

航海訓練所に在職していた頃感じていた航海士と機関士とは、意見や意識が異なっていて、地面に見えない線を引くように、互いに区別し合っていたように思います。そして、東京・神戸のいずれの出身校であるか、細分する風潮があり何かにつけて“おまえ、東京か神戸か。”という話題になります。

私の実家の富山の文化は、どちらかといえば関西に近く、エスカレータも右に乘りますし、うどんの汁も澄んでいます。しかしながら、私も東京商船大出身であり、少なからず東京ビィキでした。実習中の両大学の学生たちに対して、彼らを区別する意識は無いものの神戸だから東京だからとつい見てしまうこともありました。

東京は学生寮が整理・廃寮された時期が神戸より早く、寮生減少による縦や横のつながりが希薄になりつつあったことは否めません。学生の多くは、何かにつけて冷めていて、まとまりの無いように思っていました。そして、出身研究室を訪れた時、なるほどと思える事も多々ありました。船乗り気質を持った先生方が多く退職した事も大いに影響し東京の学生に対し、偏見を抱いていたのかも知れません。

東京か神戸か。航海か機関か。そして何期であるか。これらは日が暮れて以降、越中島や深江の境界でも、訊かれる出題頻度の高い質問です。これがクリアされて、ようやく相手との信頼関係が結ばれ、コミュニケーションが取れるようになります。それまでは、相手が幾つぐらいであるか、爪の汚れ具合やあご紐の日焼け

を探しては、デッキ?エンジン?の質問牽制球が投げ続けられます。東京か神戸か。最近になって、精度の高い判別方法を発見しました。

### 4. 常に気力と体力を

総合学術交流棟1階ロビーに掲げられている“常に気力と体力を”。現役学生の誰もが耳に留め、世代を超えて受け継がれている魂が存在しています。東京か神戸か。このフレーズを声に出し反応するのは必ず…神戸、というわけです。

2013年に本学へ着任して以来、卒業式や海神会、部活動のOB会、あらゆる場面のスピーチに登場し、話題をさらう様を目撃しました。誰もがその言葉を聞くと納得し、うなずいています。東京にもそのような魂があったならば、と羨ましく思います。

しかし両大学を経験した私には在学中、乗船実習中、更には社会人となってからも青春時代の苦楽を共にし、同じ釜の飯を食った仲間と築いてきた、経験、絆が自身最大の財産であると分かってきたからです。

### 5. おわりに

両大学の優劣を無理に結論付けることは全くナンセンスなことは皆さまも同感だと思います。古今東西、欧米にも日本にも長い歴史を持つ二つの大学がお互いの切磋琢磨しそれぞれの特色を生かしてその道で活躍している名門校は数多くあります。それと多感な青春時代に寝食・苦楽を共にし、学んだ専門知識、実習、卒業研究、課外活動等の経験は貴重な財産です。今後の人生に大いに生きてくることを忘れてはならないと思います。

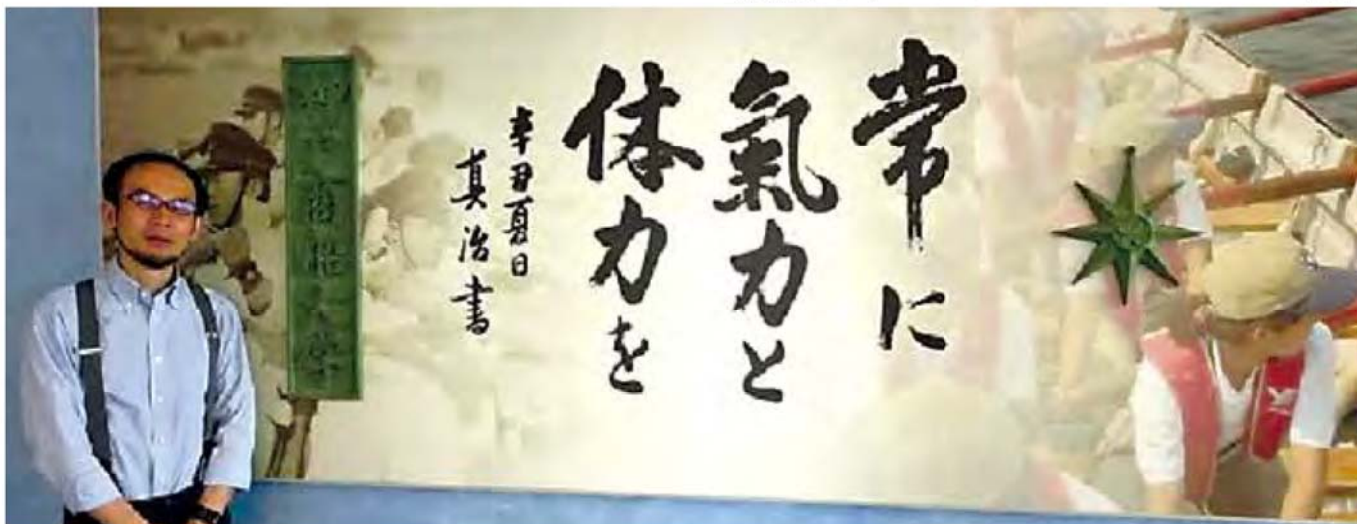
2013年に着任して、次の春には5年が経過します。徐々に神戸も見えて来て、これまで見えてこなかったことも、先ずは信じてみようかと思えるようになりました。良好なコミュニケーションには、お互いに相手をよく知り、相手を思うことが必要です。さて、皆さま、私は何者であるか、少しは知っていただけでしょうか。深江キャンパスにお越しの際には、是非お声掛け下さい。<おわり>



船用機関プラントシュミレーター



祝卒業



常に気力と体力を





## カヌー部

グローバル輸送科学科航海マネジメントコース3年 主将：田中 智之

1. 大会遠征費
2. 21人（海事科学部生 13人）
3. 私たちは毎年夏に開催される関西大会及び全国大会に向けて平日、休日問わずほぼ毎日活動しています。それぞれの大会では毎年、一回生から表彰台に上がる者もあり日頃の練習の成果を発揮する機会となっています。また、夏休みの大会期間中は部員全員で合宿を行っています。
4. 今後の目標は一人でも多くの部員が大会で活躍することです。そのためにも、来年度は部員の数も増やして今まで以上に大きな団体にし、夏の大会に向けて活動していきたいと思っています。
5. 毎年のご支援ありがとうございます。今後も日々活動を通して成長していきたいと思っていますので、ご支援よろしくお願い致します。



## フォークソング部

海洋安全システム科学科2年 主将：内山 亮介

1. 楽器等の機材・備品の購入費
2. 27人（全員海事科学部生）
3. 構成員の幅広いジャンルを活かし、様々なジャンルの音楽に日々取り組んでいます。校内の部室を利用し主体的に日々技術の向上に努め、定期的にライブを行うことでモチベーションを皆で上げ、時には互いに厳しく時には励まし合いながらもこれら活動行っています。さらに、今年は大阪で行われた音楽フェスに私たち海事フォークソング部からのバンドが参加し、有名なアーティストと同じステージで演奏する貴重な体験ができました。
4. 他団体や他大学との交流を盛んにしていき、自分たちの演奏をより多くの人に見て貰える場をもっと増やしていきたいと思っています。
5. 部室のドラムやアンプ類といった機材のメンテナンスや、楽器用ケーブルといった消耗品の補充などに当て、練習に支障の出ないことを目的とし有効に活用させて頂いています。



## 女子端艇部

グローバル輸送科学科航海マネジメントコース3年 主将：辻中 里奈

1. 支援金は大会の参加費や遠征費
2. 11名（海事科学部9名）
3. 2017年5月14日 神戸港カッターレース 女子の部 優勝  
2017年6月3日 全日本カッター競技大会 女子の部 6位  
2017年10月28日 西日本新人カッター競技大会 女子の部 出場
4. 部員が増え、人数を揃えて大会に参加できるようになりました。来年の全日本カッター競技大会では優勝を目指して頑張ります。



5. いつもご支援していただきありがとうございます。皆様からのご支援に結果で応えられるよう日々練習に取り組みたいです。今後ご支援よろしくお願い致します。





## 茶道部

グローバル輸送科学科航海マネジメントコース3年 主将：春名 優香理

1. お稽古代、お茶会費用、備品補充等
2. 2名
3. お稽古(不定期)、深江祭でのお茶会
4. 許状の取得及び部員の確保です。
5. 活動へのご理解、ご支援をありがとうございます。部員数が少ないながらも、お稽古に励んでおります。忙しい時間の中でもほっと一息つきながら、お茶を楽しみ、一期一会の機会に感謝しております。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。



## 男子端艇部

グローバル輸送科学科航海マネジメントコース3年 主将：中山 元貴

1. 連盟会費、遠征費の補助
2. 18人
3. 第62回西日本新人カッター競技大会「1位」  
第61回全日本カッター競技大会「2位」  
第63回西日本新人カッター競技大会「3位」
4. 支援してくださる皆様のおかげでいまの恵まれた練習環境があることを忘れずに、次回の全日本大会の優勝を目指す。

5. 指し部員一丸となって練習に励みます。  
海神会にご支援していただき、心より感謝申し上げます。支援金を有効に活用し、より一層精進して参りますので、今後ともご声援宜しくお願いします。



## オフショアセーリング部

グローバル輸送科学科航海マネジメントコース2年：山崎 優太

1. 活動に使用するヨットの整備費、大会出場費
2. 116人(4回18人、3回30人、2回24人、1回44人)の内96人は海事科学部の学生です。
3. 私達は主に24フィートの船6艇、26フィートの船3艇で練習しています。ヨットクラブのレースに参加したり、大阪湾でクルージングをしたりしています。冬には自分達で船の整備も行います。また、昨年は全日本学生外洋帆走選手権で3連覇を果たし、今年10月に行われた世界選手権でも、アジア勢初の優勝という成績を収めました。
4. 船と部員が増えただけでなく、メディアにも取り上げられるようになり、部活の規模が発展してきていることを実感しております。今年も全日本学生外洋帆走選手権での4連覇、マッチレース上位入賞を目指し、練習に励んでいきます。また、クルージングやレースを通じて、部全体の帆走技術の向上を目指します。
5. 毎年ご支援頂き、部員一同誠に感謝しております。これからも日々成長できるように、練習に励んで参りますので、よろしくお願い致します。



## 弓道部

現在、海事科学部の弓道部は休部中です。2018年度より活動を開始予定です。新1, 2, 3回生の皆さん興味ある方は、海神会事務局に連絡下さい。





# オフショアセーリング部が世界大会で優勝しました！

## オフショアセーリング部・広報課

オフショアセーリング部が世界大会で優勝しました！  
2017年10月25日

10月16日から10月22日の日程で、フランスのマルセイユ・フリウル島で開催された大型ヨットの学生世界選手権「Student Yachting World Cup 2017」で、神戸大学オフショアセーリング部が優勝しました。日本チームの優勝は初めてであり、ヨット強豪国の多いヨーロッパ勢の中での優勝は快挙です。



参加チームは、ヨーロッパを中心としてアイルランド、スコットランド、イングランド、ノルウェー、スイス、ロシア。アメリカ大陸よりカナダ、アジアからインドネシアと日本の全9チームが参加し、7日間で16レースが行われました。

神戸大学チームは、海事科学部9名と農学部1名（内3名女子）の構成で、日本から9名がフランスへ移動し、東欧留学中の学生1名が留学先からフランスで合流と、まさに世界を股に掛けるチームでした。

大会では、1日に4～6レースと、世界大会に相応しい厳しく密度の濃い対戦が行われました。神戸大学チームは、初日は中位の総合順位に位置していましたが、徐々に順位を上げ、大会4日目には総合3位にまでに上がり、大会5日目にはさらに得点差を詰めて、1位～3位までが1点差に並ぶ接戦となりました。

翌日のレースでは上位3チームの熾烈な3つ巴のレースが展開され、神戸大学チームは1位、2位、1位、2位と追い上げを見せ、競合する2校をかわし、総合1位に踊り出るようになりました。上位2艇は英国艇で、セーリングの盛んな英国において、質、量ともに厳しい国内予選を勝ち抜いてきたチームであり、そのチームと対等に戦えたことは素晴らしいことです。

海上では連日熱戦が繰り広げられましたが、レース後、陸上では毎晩パーティが行われ、初日の開会式ではチーム紹介があり、大会2日目にはお国自慢パ-



ティが開催されました。各チームは自国の飲みものや食べ物でオモテナシを行い、神戸大学チームも日本酒、日本食で店を開き、各国の同世代の若者と、ダンスに歌にと交流を深めました。

表彰式では、各国の学生から日本チームの初優勝に祝福を受け、歴代の優勝者名にJapanの名前を刻み、歴史の1ページを書き加えることとなりました。

大会成績

- 大会名：Student Yachting World Cup 2017
- 開催地：Marseille・France
- 日程：October 16th- 22nd
- 主催校：École Polytechnique (France)

| Place | nation | team                                              | Pts Ret |
|-------|--------|---------------------------------------------------|---------|
| 1     | JPN    | KOBE UNIVERSITY                                   | 31.00   |
| 2     | ENG    | DURHAM UNIVERSITY                                 | 33.00   |
| 3     | SCO    | UNIVERSITY OF STRATHCLYDE                         | 37.00   |
| 4     | SUI    | SWISS FEDERAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY IN LAUSANNE | 47.00   |
| 5     | IRL    | UNIVERSITY COLLEGE DUBLIN                         | 54.00   |
| 6     | CAN    | LAURIER UNIVERSITY                                | 76.00   |
| 7     | NOR    | BL NORWEGIAN BUSINESS SCHOOL                      | 87.00   |
| 8     | RUS    | MOSCOW INSTITUTE OF PHYSICS AND TECHNOLOGY        | 106.00  |
| 9     | INA    | POLITEKNIK PERKAPALAN NEGERI SURABAYA             | 109.00  |

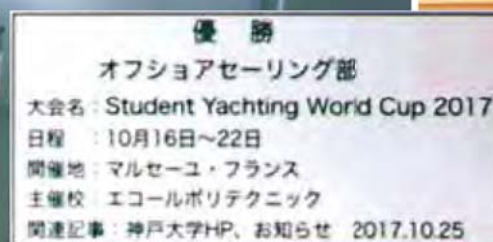
関連リンク

- 神戸大学オフショアセーリング部 HP
- 過去のお知らせ  
オフショアセーリング部がパンパシフィック大学招待レースに出場しました
- 過去のお知らせ：オフショアセーリング部が全日本学生外洋帆走選手権で3連覇を達成

オフショアセーリング部 広報課



クリスタルレプリカ



### 優勝 オフショアセーリング部

大会名：Student Yachting World Cup 2017  
日程：10月16日～22日  
開催地：マルセイユ・フランス  
主催校：エコールポリテクニク  
関連記事：神戸大学HP、お知らせ 2017.10.25



優勝カップ





## 若者からの近況報告

今回の海神会だよりより在學生（3、4回生、前後期博士課程、最近の卒業生の声）を掲載することになりました。

主に新入學生、在學生へのメッセージ、先輩やご家族の方々への現状、現実を身近に感じていただける企画の第一歩です。一人一人個性豊かな幅広い分野で活躍が期待される海事科学部の若者の考え、姿を少しでも感じ取っていただければと思います。今回は、未だ数名、数グループですが、海神会のホームページにも同様企画を加えて行ければとも考えています。ご興味ある方は海神会事務局にご一報くださるか、1号館の事務所に気軽にお越しください。

主に海事科学部同窓会：海神会との係わり、海事科学部に入って良かったと思った事、将来の目標、後輩の皆さんへ等をお聞しております。

### グローバル輸送科学科 航海マネジメントコース卒業生 地多 健太（カヌー部 OB）

はじめまして、2017年卒業生の地多健太と申します。

現在は出光タンカー株式会社に新人航海士として、研修をしております。

5年前に初めて船乗りの道を志した日が昨日のようです。やっと夢で あった航海士のスタートラインに立つことができました。

日本のエネルギーを支えるタンカーマンとして、早く一人前と呼ばれるように、立派な船長になれるように、深江魂を燃やして励んでいきたいです。



中央：地多 健太（新人研修生と共に）

現在、海運会社の陸上職として東京で勤務をしており、太平洋海域を航行するバルカー船の運航担当しています。

トラブルもしばしば起こりますが、上司や先輩方に助けられながら、日々の業務を行っております。

長期休暇中には、大学の同期とスペイン旅行に行きました。美味しい食事や風景を楽しみながら、学生時代の懐かしい話や新生活の話などで盛り上がりました。

在学中の話で盛り上がることもできるのも、先生方、先輩、同期、そして海神会の方々のご支援の元、様々なことを経験させていただけたからこそだと思っています。

今後とも、変わらぬご支援のほど宜しくお願い致します。

### 2017年3月卒業 辻本 佐和子



スペイン サグラダファミリアにて

#### 1. 勤務先

大阪市内に本社を置く、海水淡水化装置の大手メーカー

#### 2. 現在の配属・勤務部署・職場雰囲気など：

船用機器の設計などを行う部署にいます。弊社で設計・製造している船用機器は、造水装置（海水淡水化装置）、油水分離器、污水处理装置や船用熱交換器などがあります。先輩・上司の方々から丁寧に教えてもらいながら仕事を覚えています。

#### 3. 仕事の現況、将来の目標、希望、モットーなど：

一年目ということもあり装置の設計などまだ担当者として任されていません。図面の手直し、装置の性能試験などの手伝いという形で仕事を覚えています。まずは、早く仕事を理解し、覚え、お客様や社内の先輩、後輩から担当する装置について信頼され・頼られる存在になりたいと思います。

#### 4. 後輩への一言：

神戸大学海事科学部は、商船大学時代も含め多くの先輩方が広い分野で活躍されており、意外な場所で先輩・後輩に出会えます。多くある理工学系の学部とは異なり、特殊な分野の内容を学ぶことができるのが海事科学部の特徴で

### 2017年3月卒業 中島 勲<sup>あきよし</sup> 祥

あり、利点であると私は感じています。特に、乗船実習での経験（約1か月）は非常に貴重な経験になりました。大学側への希望ですが、4年間の在学中に海事科学部の学生全員が1か月程度の練習船での実習経験が出来る教育システムになれば願っています。

#### 5. 同窓会（海神会）へ一言：

学生には同窓会の活動をもっとPRされた方が良いと思います。





## 海神会との係わり

マリンエンジニアリング学科 メカトロニクスコース 3 回生 猪井 裕貴

海神会自体は入学時に知りました。同窓会と言うより学部の後援団体だという認識でした。関わるようになったのは最近で、就職活動がきっかけでした。海神会が直接就活支援を行ってはいませんが、事務局の方に個人的に相談に乗っていただき何点かのアドバイスをいただきました。

海事科学部に入って良かったと思ったのは、理工系の学問を幅広く学べ、乗船実習等特色ある授業もある点です。また様々なコースがあり、学びの幅も広く、改めて良い環境だと感じています。

将来の目標は自分で自分の身を立てられる人間になることです。現在進路としては就職を考えています。大学院進学も視野に入れ、幅広く見ていきたいと考えています。

後輩の皆さんへ。大学時代の四年間は長いようで、あっという間です。各学年ごとにすべきことがあるので、同じ一年間の繰り返しだと思わず、目標を持って過ごしてほしいと思います。良いようにも悪いようにも大きく変わる四

年間だと思うので、しっかりと自分を持って過ごして下さい！

突然の訪問にも関わらず、暖かく対応して頂き、ありがとうございます。

この場を借りて御礼申し上げます。



マリンエンジニアリング学科 3 回生 穴井 祥平

1. 同窓会を知った時期：入学時に加入したとき
2. キャンパスライフで良かったこと：面白い人々と出逢えたこと、悟りを開く第一歩に。
3. 後輩へ一言：単位を落とさないように頑張ってください。
4. 同窓会（海神会へ一言）：「私は2号館のような古風ですが、1号館は見た日にも威厳に欠けるので、寄付金を募り、1号館だけでも取り壊して神戸高等商船学校、神戸商船大学時代の校舎を参考に再建してはいかがでしょうか？近い将来、私にも何らかの係わりが出来ればいいなと思います。」



左：2号館、正面：1号館

神戸大学柔道部

マリンエンジニアリング学科メカトロニクスコース 4 回生 三井 翔也

はじめまして。

神戸大学海事科学部マリンエンジニアリング学科メカトロニクスコース 4 回生の三井翔也です。

以前は岐阜高専に在学しており、電子制御工学の基礎を学んだのち、さらに自身の専門性を高めたいと考え、2016年 4 月に本大学へ編入しました。

私が所属する電気工学研究室では、電気エネルギーの高効率利用を実現するため、エネルギー変換・利用効率の極限化に不可欠な電力変換回路とその応用電源システムを構築する「パワーエレクトロニクス研究」に取り組んでいます。現在は回路のシミュレーションや理論解析が中心ですが、今後は装置の作成や実験評価、解析、学会発表を目標に、研究に取り組みたいですと考えています。

将来の夢は、自分が開発・設計に携わった製品によって、省エネルギー社会の実現に貢献することです。

本研究室で扱う「半導体電力変換器」は、家電、自動車、鉄道など様々な分野に応用できるという点があります。研究活動を通じて高い実践力を養い、将来、人々の暮らしをより良くしたいです。また、私は神戸大学柔道部の主将を務め、11月23日に行われた第65回旧三商大戦において、同部4年ぶりの優勝を果たしました。

道のりは険しく、毎日が試行錯誤でしたが、最後まで諦めず、地道に努力を継続したことが今回の結果に繋がった

と思います。

日頃からご支援いただいた先生、監督、コーチ、後援会、OB、そして、未熟な主将を支え、共に切磋琢磨した現役部員に深く感謝しています。

そして、この伝統ある柔道部が末永く存続し、より活躍できるように、少しでも多くの新入生に入部してほしいと願っています。

最後に、今日まで私を愛情持って育ててくれた両親に、感謝の気持ちを伝えます。

いつか恩返しできるように、今後も文武両道で頑張ります。



神戸大学柔道部





# 会社紹介



PHILIPPINE TRANSWORLD SHIPPING CORPORATION

Welcome to PTSC



N13期 刈屋 澄世

Philippine Transworld Shipping Corporation was established on November 1977 at Manila Philippines.

Founded by three gentleman, Mr.Sumiyo Kariya and two Philipino.

First, we started from seaman recruiting and ship-husbanding business. Then Philippine domestic logistics and ship-owner business. Our most new business started from 2008 in manpowering. After more than 40 years, with the help of the Almighty, PTSC officers and staff work strive as a family with a mutual goal ..... SUCCESS!!!

## A. 経営理念

考えて、行動して、結果を出すよう日々努力し、社会に貢献すること

## B. 経営方針

堅実経営

## C. 業務内容

船員派遣業、船舶代理店業、フィリピン国内物流業、船主業、人材請負業

## D. 社員数

フィリピン人 120 名          日本人 7 名

## E. 本社所在地と窓口 (※Please free to contact us.)

|                  |   |                                                                                          |
|------------------|---|------------------------------------------------------------------------------------------|
| Address          | : | 9th Floor Ermita Center Building, 1350 Roxas Boulevard, Ermita, Manila, Philippines 1000 |
| Telephone        | : | (63-2) 526-7416 (connecting all depts.)                                                  |
| Fax Number       | : | (63-2) 521-9125                                                                          |
| Website          | : | <a href="http://www.ptsc-manila.com">www.ptsc-manila.com</a>                             |
| E-mail address   | : | <a href="mailto:administration@ptsc-manila.com">administration@ptsc-manila.com</a>       |
| Person In Charge | : | 山田亜矢子(ayako-yamada@ptsc-manila.com)                                                      |

## D. 東京事務所と窓口 (※Please free to contact us.)

|      |   |                                          |
|------|---|------------------------------------------|
| 名称   | : | Tokyo Transworld Shipping Corporation    |
| 住所   | : | 〒104-0031 東京都中央区京橋 3 丁目 4-2 フォーチュンビル 4 階 |
| 電話   | : | 03-3705-0829                             |
| FAX  | : | 03-3517-5355                             |
| 担当窓口 | : | 渡辺隆(ttsc@ttsc-tokyo.com)                 |



←海神会 HP に繋がります。刈屋澄世氏のインタビューの記事は、「海神会だより」No.12 に記載されています。





# 外国航路よもやまばなし 第7回目



神戸高等商船航海科 43 期生 村田 惇雄

## 11. ポートカナベラルにて

ブラジル、サントスにて、アメリカ、ポートカナベラル揚げのオレンジジュース 25,000 缶 (1 缶は通常のドラム缶の約 2/1 程度) を積み、宇宙ロケット打ち揚げで有名なポートカナベラルに入港した。この岸壁では、チヌ、アナゴなどがよく釣れたので、魚釣りの好きな小生は十分に釣りを楽しむことができた。夜、アナゴ釣りをしていると、アメリカ人夫妻が通りかかりバケツの中のアナゴを見て、これはどうやって食べるのか、と聞くので、小生、料理の方法を、まずアナゴの背中をたち割って、カバ焼きにして食べるところまでを説明したところ、小生をテッキリ、コックと思いこみ「お前はコックか」と言ったので「コックではない」と答えたら「それではお前は、船で何をしているのか」と聞くので「キャプテンだ」答えると先方はビックリして「日本ではコックからもキャプテンになれるのか」と聞いてきた。かの夫妻はアナゴ料理と、コックのことが余程頭にこびりついてたものと思い、おかしくなった。また、夜岸壁で魚釣りをしていると、急に肩のあたりが重くなってきた。これは、周りを飛んでいた大きなペリカンが肩にとまったものであり、小生が少し身体を動かしたらペリカンもビックリして大きな羽をバタつかせながら飛び去っていった。また、ある日のこと水先船の船長が岸壁から投網を打っていたが、どうもうまく広がらないので、小生がその近くに行き「ちょっとかしてみよ」と言ってその投網を借りて小生が打つてみると、見事に広がった。水先船の船長はそれ以後小生のところに来て小生の指導のもとで投網の練習をしていたところ本船出港の頃には随分うまく扱られるようになった。それというのも、小生、少年の頃から投網を打ち、夏ともなれば川で小魚を沢山採り、その料理方法も一応覚えており、破れた網の修理や魚を捕るタマを作る方法も身につけていた。また、釣り船の操法は、櫓でも竿でも自由自在に扱うことが出来た、この要領でカ

ヌーに乗ればわけなく動かすことができたので、南方でもカヌーを借りて随分と釣りを楽しむことが出来た。乗組員たちは時々うちの船長は「水産大学の出身ではなかろうか」とも言っていたこともある。それはともあれ、外国の港で投網を打ったキャプテンは私くらいであろう。この港は、宇宙ロケットの打ち上げ基地とも隣り合っており、打ち上げ基地も見学でき、船からも“チャレンジャー”の打ち上げ光景を見ることができ良い思い出となった。

## 12. 飛行機交代下船

昭和 59 年 2 月スエズを越えて大西洋に出て一年余り、ヨーロッパ、アフリカ、南米、アメリカの諸国を縦横に走りまわったが、昭和 60 年 3 月ベルギーのアントワープで交代下船し日本に帰ることとなり、ブラッセルで一泊し、あと空路コペンハーゲンに出て、モスクー経由で成田に向かった。機内食で「にぎりずし」が出された。長らくこんなものを食べていなかったの、おいしそうにパクパク食べていると隣に座っていたデンマーク人が「自分は、これをたべないから」と言ってニギリズシを小生にくれたので、有り難く頂いて食べ、大いに満足した。あのおいしかったことは、今でも忘れられない。やがて成田に着帰、間もなく大阪に着いた。大阪空港では、乗客の荷物検査を可成り厳重に行っていたが、私の場合は、船員手帳を見せたところ、船のトン数や職名を見て、「キャプテンですね、どうぞ」と言って荷物検査も無しでそのまま通してくれた。このことは、私の長かった海上生活に終止符を打つのにふさわしい幕切れであり、大変気分が良かった。あれから 20 数年たつが、船乗りのクセが身についたものか、毎日の気象情報は必ず見ることとし、またこれが生き甲斐のようにも思えてくる。これからも船乗りの座右の銘である“スマートで、目先が利いて、几帳面、負けじ魂、これぞ船乗り”この精神だけは忘れることなく、日々過ごしたいと思う。

第 16 号につづく

## 神戸大学附属図書館海事科学分館からのお知らせ

### 卒業生貸出のご案内

附属図書館では、本学卒業生・修了生の学習・研究活動等を支援するため、卒業生貸出サービスを実施しています。初回利用時に登録が必要です。

- 対象者● 神戸大学又は神戸大学の前身となる大学等を卒業・修了・単位取得退学された方
- 登録受付日時● 平日 9:00-17:00
- 登録時必要書類● ・本人及び現住所を確認できる身分証明書 (全員)  
・卒業を証明できる書類 (2000 年以前の入学生で同窓会名簿に掲載のない方のみ)
- 貸出冊数● 6 冊
- 貸出期間● 3 週間
- 利用証有効期限● 発行年度末 (以降更新)
- 通常期開館時間● 平日 8:45-20:00 土曜日 10:00-18:00
- 休館日 日曜・祝日 本学創立記念日 (5/15)、  
年末年始 (12/28-1/4)
- ※休業期・試験期は変更あり

詳細は下記ホームページにてご確認ください

※お問い合わせ先※

TEL:078-431-6239

E-MAIL:wlbsvc@lib.kobe-u.ac.jp

http://lib.kobe-u.ac.jp/libraries/list/kaiji/

海神会への寄付一覧 No.7 (2017年2月～2017年10月)36名の方々から439,000円のご寄付を頂きました。皆さまのご支援を心よりお礼申し上げます。

| 氏名    | 学科・期 | 金額 | 氏名     | 学科・期 | 金額 | 氏名    | 学科・期 | 金額 | 氏名    | 学科・期 | 金額  |
|-------|------|----|--------|------|----|-------|------|----|-------|------|-----|
| 小林多嘉男 | N11  | 10 | 西重 正博  | E21  | 10 | 山川 欣男 | N12  | 3  | 滝本 純治 | N17  | 6   |
| 足立 一夫 | BE4  | 10 | 内田 直行  | N6   | 30 | 吉川 渉  | N5   | 10 | 小見山純郎 | N17  | 6   |
| 岡安 博  | E45  | 5  | 石井 秀夫  | N20  | 10 | 前田 清  | N21  | 10 | 高田 哲夫 | N5   | 100 |
| 長野 信夫 | N45  | 5  | 明 俊勝   | N20  | 10 | 西宮 悦夫 | N44  | 10 | 酒井 亮一 | E24  | 6   |
| 西村 光司 | N26  | 10 | 井手 祐之  | E14  | 10 | 三村 治夫 | E29  | 6  | 村井 康二 | N37  | 6   |
| 伊坂 大  | N34  | 5  | 岡野 謙一  | E30  | 5  | 久保 雅義 | N13  | 10 | 水間 範夫 | N13  | 20  |
| 三須 千純 | E4   | 10 | 西原 裕人  | N9   | 5  | 米田 巽  | N6   | 10 | 山室 健二 | N11  | 5   |
| 牛島 龍彌 | N13  | 5  | 田島 博之  | N13  | 10 | 藤原 義和 | E17  | 5  | 須賀 弘  | N13  | 50  |
| 加藤 健彦 | N44  | 10 | 稲葉 八洲雄 | N7   | 5  | 神吉 行彦 | E13  | 6  | 荒木 亘  | E36  | 5   |

### 【編集後記】

今回の海神会だよりは 20 頁に増頁し、新入学生への配布にも間に合わせるために 2 月中旬に発行する運びとなりました。これも各寄稿者のご多忙にも拘らず期限内に執筆していただいたこと、また学友会の方々から参考誌面等での内容についてのご指導にも恵まれたことです。若者の活動報告、若者からの一言、先輩から生き様などじっくりご覧ください。そして、最後まで積極的に参画していただいた海神会総合運営委員会の皆さんやご遠方からメールチェックしていただいた方々に感謝申し上げます。同窓会は今後もいろんな方面への支援は続けます。今後ともみなさまのご協力の程よろしく願いたします。

海神会 事務局長